

## 第2回 富岡シルク手編みニット展に寄せて

～幸せつなぐ富岡シルク～

世界中の人々を魅了した光り輝く日本のシルク。その礎となったのは、明治5年（1872年）富岡の地に創建された富岡製糸場でした。明治42年（1909年）、世界一を誇った日本の生糸は、外国産の安価な生糸に圧され、現在では市場の僅か1.0%以下となり、とても希少なものとなりました。

この度、“富岡シルク”を、より身近に感じていただきたいとの“おもい”から、富岡市の養蚕農家が丹精込めて生産した希少な繭より上州座繰り手法で繰糸した生糸と、今回については蚕が繭をつくるときに最初に吐く繭糸“きびそ”を手芸用にアレンジいたしました。

昨年8月に富岡シルク手芸用絹糸を使用した手編み作品募集の公募を行いましたところ、北は北海道から南は鹿児島に至るまで、全国から幅広い年齢層の方々にご参加いただくことが叶いました。

本企画展では、本絹糸を100%使用し、一目一目手編みで真心こめて製作していただいた力作ばかりを一堂に展示しています。

出展者の皆様の養蚕、繭、シルクに対する“おもい”が繋がり、そのたくさんの“おもい”が“結晶”となり、作品とともに会場で美しい輝きを放っています。

関係各位の皆様のご協力により、本企画展が開催できましたことは誠に有難く感無量であり、また富岡シルクの絹糸を実際に手に取っていただき、心を込めて素晴らしい作品に仕上げてくださいました出展者の皆様へ心より感謝申し上げます。

皆様の未来がシルクのように美しく光り輝くよう願いを込めて。

（一社）富岡シルク推進機構  
理事長 高橋 純一